



## 子どもに任せる？大人が関わる？

園長 川嶋 佳恵

入園から1ヶ月が過ぎようとしています。新しい生活に不安を感じて登園時に保護者の方から離れ難かった子どもたちも門の所で園長の私と挨拶をすると、保育室の前で待っている担任の所まで小走りに駆けよっていったり、保護者の方と離れる時には涙が出るけれど…離れたらすぐに気持ちを切り替えて元気いっぱい楽しく遊ぶ様子が見られるようになりました。「今日も、〇〇して遊ぼう。」「今日は、どんな楽しいことがあるのかなあ。」「今日は、〇〇ちゃんと一緒に遊ぼう。」等、子供園での生活への期待や喜びが感じられるようになったということですね。このような気持ちが支えになり、好きな遊びだけでなくみんなでする活動にも落ち着いて取り組むことができるようになり、それぞれの年齢に応じた経験がしっかりと積み重なっていくことにつながっています。

さて、4月半ばころより全員保育が終わった後から15時までの間の園庭開放が始まりました。うさぎ組の子どもたちはもちろん、保護者の方も初めての経験になる方もいらっしゃると思います。園庭開放は、主に全員保育後に降園される親子の皆さんが対象となりますが、長時間の親子の方も降園される後に親子同士でネイチャーガーデンで遊んでから帰る様子も見られます。そこで、今回は、降園後の園庭開放やネイチャーガーデンなど公園での遊びの様子や保護者の方の関わり方についてお伝えします。

降園後の園庭開放やネイチャーガーデン、近隣公園での時間は、保護者の方に見守られ、砂遊びをしたり、広いグラウンドで伸び伸びと三輪車やスクーター、ストライダーに乗ったり、親子でサッカーをしたり、学年の枠を超えた関わりがもてるなど、子どもたちにとって園生活とはまた違った楽しさがあります。保護者の方も、身近な場でお子様と一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、「こんな風に友達と関わるんだなあ。」とか、「こんなことができるようになったんだなあ」等お子さんの様子を知る機会になったり、保護者同士の関わり場の場となったり等とても有意義な場や時間になると考えます。一方で、園生活では守っているような基本的な生活の決まりが守れていなかったり、友達とのやり取りや遊びの中の関わりが行き過ぎではないかという場面に遭遇したりすることがあり、どうしたらいいのかわかっているという声も聞かれます。例えば、「行き過ぎていると思う行動をしているお子さんが気になったけれど、そのお子さんの保護者の方はその様子を見ていなかったり、遠目で見、あまり気にする様子が見られなかったりすることがある。」「気になってはいけれど、どのように声を掛けたらいいのかわからない。」「子供園の先生がするように幼児に寄り添った声の掛け方ができず、そのままになってしまっている。」「危険だったり、やりすぎだったりする基準がわからない。」等があります。中には、「気になったらきちんと声を掛けているけれど…それがよかったのかどうか分からない。」という方もいらっしゃいます。

このように、保護者の皆様の育児感、それぞれかなり違いがあり、「子どものことだから自分たちで、解決させたい。親が口を出すなんて…。」や「危険なことは、ある程度自身で体験することも大事。」と思う保護者の方もいれば、「いやいや、ちょっとでも危険だと感じた時には、遠慮なく止めるべきだ。」と思う保護者の方もいらっしゃいます。そう考えると、トラブルの場面でも声を掛けたいのかどうか躊躇する気持ちもわかります。しかし、幼児の発達から見ると、危険だったり、やりすぎだったりすることに関して、まだまだ幼児の段階での自己判断は、難しいと言えます。つまり、何でもかんでも転ばぬ先の杖的に「やめなさい」と止める必要はありませんが、周りの大人はやりすぎ、行き過ぎを察知して、やっていいことといけないうことや危険なことをその都度、教えていく必要があるということです。園生活の中では、保育者が規範意識や危機回避能力を身に付けられるように指導・援助をする役割を果たしています。子どもたちも園生活の様々な経験の積み重ねによって「これは危険だから(人を傷つけるから)やってはいけないことなんだ。」ということを知り、守ろうとします。しかし、園庭開放や降園後の公園では、気持ちが大胆になったり、周りの雰囲気と一緒に遊ぶ幼児に流されたりして、その約束が守られないことも多いのです。これは、まだまだ善悪を自身で判断できない幼児の特徴でもあります。この善悪を自身で判断できるようになるのは10歳といわれています。だから、降園後の遊びの場面では、保護者の方が見て、やりすぎ、行き過ぎを察知して、やってはいけないことを教える役割を担ってほしいと思います。保護者同士のおしゃべりや情報交換の楽しい時間ではありますが、そこに集中してしまえば、お子さんの危機やトラブルを見逃してしまいます。お子さんが遊んでいる近くで、ご自身のお子さんの様子や友達との関わりの様子をきちんと見て、いざという時には声を掛けようという意識がとても大切だと考えます。保護者の方が見ている中で、「これは、やりすぎ。」「これは、危険。」「こんな言葉を使ってはいけない。」と思ったら、感じたら注意をしてあげてください。また、ご自身のお子さんがやりすぎってしまった場面では、保護者の方がお子さんと一緒に謝ることも大切な教育です。

自由に、伸び伸びと育てることは、とても大切なことですが、それは、危険や人としてやってはいけないことを見逃すことではありません。もしもお子さんやその周りの子どもたちが間違っているなと感じた時には、子どもたちにしっかり向き合っ、正してあげることも大人の責任です。子どもたちのことを一番近くで見ている保護者の方が、共に子育ての仲間となって良いところをきちんと言葉で認めつつ、時機を捉え、必要なアドバイスをしていくことが子どもたちの成長にはとても大切だと考えます。



## 《今月の指導》

### ★3歳児 うさぎ組

おうちの人と離れる際にまだ少し寂しい気持ちもあるけれど、担任をはじめ周りの先生が側にいることで安心して過ごしています。塗り絵やままごと、砂遊びなど自分の好きな遊びをじっくりとしたり、保育者と一緒にお面をつけ、ダンゴムシになって遊んだりしながら楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の好きな遊びを見つけて繰り返し楽しむ。
- 保育者や周りの幼児と一緒につくったり、体を動かしたりする楽しさを感じる。
- 登園後の所持品の始末や降園準備など自分でできることをやってみようとする。

シール・のりなど初めての素材と出会い、つくることを楽しんだり、保育者と一緒に体を動かしたりしながら子供園で遊ぶことがより楽しくなっていくように援助していきます。また、子供園での生活の仕方が分かり、自分の身の回りのことを自分でやってみようと思えるように援助していきます。

### ★4歳児 くま組

進級・入園して約1ヶ月、くま組での生活に少しずつ慣れ、担任にも親しみを感じながら関わる様子が見られるようになってきました。「今日は〇〇で遊ぶ!」とやりたい遊びを見付けたり、友達と誘い合ったりしながら、くま組で遊ぶことを楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 興味をもったことに自分から関わり、自分のやりたい遊びにじっくり取り組む。
- 先生や友達と関わったり、一緒に遊んだりすることを楽しむ。
- 戸外で身近な自然に関わったり、思い切り体を動かしたりする楽しさを感じる。
- 身の周りの始末や遊具の片付けなど自分でできることは自分でしようとする。

簡単なルールのある遊びをしたり、ホールで表現遊びをしたりすることを通して、みんなで伸び伸びと身体を動かす楽しさを感じられるようにしていきます。また、先生や友達と一緒に虫を探したり、野菜の苗を植えたりすることを通して、自然との触れ合いも楽しみます。

### ★5歳児 そう組

年長組になった喜びを感じながら、友達と一緒にこいのぼりづくりや砂場で大きな山づくりをしたり、年中・年少の友達に優しく関わったりしています。そう組になってから取り組んでいる名札の付け外しも、少しずつ自分でできるようになってきています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 遊びのめあてをもち、友達とやり取りをしながら遊びを進める楽しさを味わう。
- 身近な自然を取り入れながら、戸外で伸び伸びと体を動かすことを楽しむ。
- 園生活の流れに見通しをもち、身の回りのことに自分から取り組む。

新しく大型積み木を遊びに取り入れ、友達と力を合わせて場をつくったり、友達とやり取りをしたりしながら遊びや活動を進めていくことができるようにします。遠足に向けて、友達と相談しながら共通の体験が楽しめるようにしていきます。